



♪今日の歌「それでこそロータリー」♪

どこで会っても やあとやおうよ
見つけた時にゃ おいと呼ぼうよ
遠い時には 手を振り合おうよ
それでこそ ローローロータリー

「くずはロータリークラブ会員による…私の履歴書」

このコーナーは他の会員に対して自分をアピールする場と考えています。
「私はこんな人間」「ロータリーでの忘れられない思い出」などなんでもOK。

今週は 西田 英夫 広報委員長

幼少期の私は4人兄弟の末っ子(次男)として、今思えば、文字通り「何不自由無く」どちらかと言えば“かなり”甘やかされていた家庭環境で成長しました。そんな中、「人生には転換期がある」と言う話を聞いたことがありますが、私にもその転換期なるものが確かに存在していたことを、最近特に感じるようになってきました。その記憶に残る転換を4つ紹介します。

1つ目は大学生当時、勉強は一切せず車で走り回る、大学の友人と遊び呆ける、といったごくごく普通の学生生活？をしていました。しかしバイト先で知り合った当時の店長がヨットを所有し、そのクルー(悪く言えば小間使い)として福井県にある田舎のマリーナに出入りするところから私の人生が大きく動きだしました。そのマリーナは他のマリーナと異なり、オーナー同士の横のつながりが濃く、仕事や立場の全く違う者同士が、みんなフランクで気の赴くまま酒を酌み交わしたり、一緒に海で遊んだり助け合ったりと、まるで「海の長屋」的な雰囲気醸し出していました。普通、「船のオーナー」と聞くと「お金持ち、セレブ」を想像するのが一般的と思われるが、そこは田舎の貧乏マリーナ、船を駐艇する設備こそありますが、メンテナンスのための専属スタッフや、ハーバースターと言った



とにかく船にハマっていた頃



美しい……

スタッフはおらず、金庫番の管理人が一人いるだけの極めて質素なものでした。だからこそ「お互いに助け合う」という少し変わったマリーナのスタイルが確立され、またその“ケッタイな感じ”が妙に心地良く、結果的に10年以上も通いつめることとなり、年齢が倍程も違う人たちとも色々な話をする機会に恵まれ、また多くの面倒を見て頂きました、そして何よりも本当の意味での生涯の友を見つけることが出来たことなどが1つ目の転換であります。

2つ目はサラリーマン時代。当時はマスコミによって「就職氷河期」という言葉が流行りだした時代で、私のような三流大学卒には厳しい就職活動を余儀無くされた時代でありました。しかし父親の会社は既に長男が帰っており、また私自身も帰るつもりなど毛頭無かったため、それこそ人生で初めて“必死”で就職活動に励むことになりました。ついには当初から希望していた、「物流関係のメーカーで、なおかつ現場でモノづくりを経験でき、最終的に営業がしたい」という、ピンポイントな希望を叶えてくれる冷凍車のボデーメーカーに就職することができました。2年間の現場研修(実作業)を経て後、念願の営業職として

仕事をすることとなりました。営業するのは、運送会社はもちろんのことですが、冷凍車のボデーは、トラックに架装しなければ機能しませんので、トラックディーラーも主な営業先でありました。担当エリアは、三重県を中心に、愛知県・富山県・石川県・滋賀県と広範囲であったため、営業車の年間走行距離は5万キロ以上にもなりました。とにかく当時はすべてにおいて“ガムシャラ”で若さと体力に任せ、効率が悪くても、無駄な動きが多くても、とにかく頭も悪いし、知恵も無いから体を動かすことだけが取り柄の時期でありました。最近になって感じるのですが、若かりし頃にたくさんの「ムリ・ムダ・ムラ」をしたからこそ、体力の落ちた現在では、「如何に効率よく動くにはどうすれば良いか？」を考えることが出来るようになったのだと思います。当時の無駄な動きは決して単なる“無駄”ではなく、後々役に立つ良い意味の“無駄”であったと思います。

次に当時の取引先である運送会社は、一般的に「トラック100台あれば大手」と言われるほどで、顧客である運送会社のトラックの保有台数は1~30台程度の中小会社がほとんどでありました。そんな企業にとって新車の購入・更新は大きなイベントのひとつであり、私が対峙する方々は社長や専務と言われる人がほとんどでありました。そのような方々から私は「人生の厳しさ・生活することの難しさ、醍醐味など」を教えて頂いたと同時に、二十歳そこそこの若造が多くの経営者と触れ合う機会を多く持ったことで、私の世界観が大きく変化した時期でもありました。ちなみに掲載しているトラックは当時、ご縁があって新規の取引先となったユーザーに初めて納入させて頂いたトラックです。当時、その会社はさほど大きな会社ではありませんでしたが、社長がなんとも言えない魅力的な方で、「この社長のた

第1740回例会プログラム

- 開会の点鐘
- 友情と親睦の握手
- 国歌斉唱
- ロータリーソング「それでこそロータリー」 //
- お客様紹介
- 講師紹介
- 幹事報告
- 委員会報告・出席状況報告
- 卓話「進むべきこれからの日本」
- 謝辞
- その他・ニコニコBOX報告
- 13:30 閉会の点鐘

岩本会長
全会員

//

親睦委員

岩本会長

山口(尚)幹事

林(克)委員長

衆議院議員(前官房長官)平野博文先生

高島副会長

山口(彰)SAA

岩本会長

司会 山口(彰)SAA



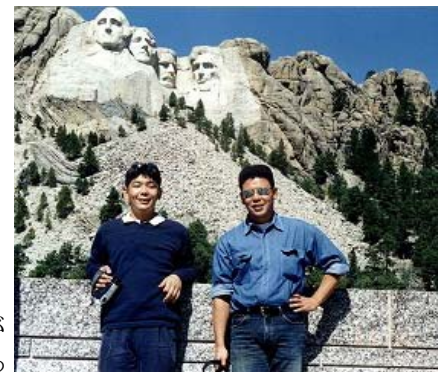
映画「シェーン」のラストシーンに使われた岩山にて「シェーン、カムバック」

めには最高のものを造りたい！」との思いで取り組んだボデーです。それまでたくさんのボデーを納入しましたが、この車が私の中でいまでも“最高の車”です。その後この会社は順調に業績を伸ばし、今では大阪地区でもその“勇士”を見かけます。伸びる会社には、必ず魅力的な経営者が存在することを学んだと同時に、その会社の車(トラック)を見るたびに、何か我が事のように嬉しく、また誇り高いものを感じています。(他の人には理解できない、私だけのマニアックな喜びです…)

そして3つ目は、私が父の経営する会社に帰ることになったことです。それはサラリーマンを始めて5年が経った頃、実家に帰った私に父が一言「おまえ…、いつになったら会社(大阪螺子)に帰るんや？」と言われ始めました。しかし当時は仕事も順調で、売上(営業実績)にも多少の自信はありましたし、私自身は非常に充実した、なによりも仕事をしていて楽しくてしょうがない時期でもあったので、既に兄がいる会社にいまさら帰るという選択はありませんでした。ところが何度もその事を聞かれるので、海の友人(10歳も年上ですが…)に相談したところ、「お前は大阪螺子のおかげで大きくなったんやろ！だったら恩返しせんかい！もし上手く行かんで会社を放り出されたら好きなトラックにでも乗れ！」と一喝され、「それなら乗るか反るかでやってみるか！」と一念発起し、会社に帰ることを決意したのでした。

そして最後の4つ目は、会社の中で新規事業を立ち上げた事です。大阪螺子に帰った後、業務や業界の知識はそれなりに増えましたが、会社全体を包み込む“閉塞感”を感じながら悶々とした日々を送っていました。確かに当時の大阪螺子は創業70年を超え、業界でも“老舗”と呼ばれるようになっていました。しかし「このままでは創業100年を迎えることが出来ないのではないか？」という漠然とした不安が常に付きまとっていた時期でもありました。その主たる原因が入社以来、とにかく会社に“変化”が無い事でした。まるで「10年1日の如く」ゆっくりとした時間が流れていて、「このままではいけない！何かしなければ！」そんな一心で、最終的にあるひとつの答えに辿り着きました。それは「金型の内製」です。我々の業界では、「金型は金型メーカーにお願いするもの」というのが一般的でした。しかしそれでは開発力が育たないだけでなく、製品を試作・立ち上げる際、3~5ヶ月という長い時間が掛かる。スピードが求められる時代、それでは競争に勝てない。そう考え、有志と共に「金型の内製化」を提唱し推進しました。しかし当時の役員はみなこぞって反対、「そんなこと出来っこない、必ず失敗する」というのが主なものでした。最終的に父親(会長)が「失敗してもええ、やってみ！」と言われ取り組むことが出来ました。その後多くの紆余曲折がありましたが、ここで人生2度目の“必死”を経験し、わずか1年で立ち上げ、現在では試作期間が約1ヶ月に短縮可能となりました。同時に開発力も飛躍的に向上し、ユーザーから新規開発の依頼が多く舞い込むようにもなりました。

そして現在、お蔭様で今秋「創業75周年」を迎え、私自身も父から事実上の経営を任せられ、次の100周年に向かって大きく“舵”を切っていると実感する日々を送っています。今では今年76歳になる父に“大いなる感謝”をすると共に、年老いた父を見るにつけ、安心して任せることが出来る“一人前の経営者”に一日でも早くなれるよう努力する日々を送っています。そして「人生万事塞翁が馬」の如く、本当に人生は何が幸いするか解らないと感じつつ「今日という日があるのも先祖や両親のお陰…」と感謝すること、またその意味が少しずつわかってきたような気がする今日この頃です。



歴代のアメリカ大統領と記念撮影

■ 会長通信

親が子を見捨て、子が親の金を目当てにし人間の尊厳を無視して放置する。こんな日本に誰がした！

「こんな女に誰がした」で有名な「星の流れに」はモデルがいるという。満州から引き揚げて来た22歳の看護婦さんの話だそうです。

引き揚げて来たものの、不運が続いて東京上野の地下道で寝起きするはめになった。するとその女性におむすびを2つ持って来てくれた男がいた。その次の日もおむすびを2つくれた。そして三日目に「一緒について来なさい。私が仕事を世話をするから」と言われ、結局はガード下に立って客を引くようになったそうです。

その様なてんまつが新聞に掲載され、その記事を読んだ清水みのるさんという作詞家が泣きながら一晩で歌詞を書き上げたという。作曲家の利根一郎さんもその話を聞いてぜひ自分に作曲をさせてくれと名乗りを上げられたといいます。歌っていたのは菊池章子さんという娘だそうです。他の人に決まっていたのですが、自分と同世代でこんなに悲しい境遇の人がいるのかと泣きたい気持ちを胸に秘めて歌ったといいます。スタジオでみんなが涙を流しながら作り上げたという事を知りました。

人は悲しい時は悲しい歌を歌った方が力が湧いてくるといいます。

みんなで口ずさんでみましょう。

- ①星の流れに身を占って、
何処をねぐらの今日の宿。
すさむ心でいるのじゃないが泣けて
涙も枯れ果てた。こんな女に誰がした。
- ②煙草ふかして口笛ふいて、
あてもない夜のさすらいに
人は見返るわが身は細る町の灯影の
わびしさよ。こんな女に誰がした。
- ③飢えて今頃妹はどこに、
ひと目逢いたいお母さん。
ルージュ哀しや唇かめば、闇の夜風も
泣いて吹く。こんな女に誰がした。

■ 今週のパシャ！

北河内柔道大会が 2010年9月19日(日)交野市総合体育館にて開催され、入賞者には大会委員長(駕田毅会員)より賞状授与。



写真撮影 多田利生会員

■ 卓話

「海の中」 原田武夫会員、山口伊太郎会長エレクト



今年4月末連休の頃、南米エクアドルガラパゴス諸島にて

マンボウ、マンタ、ハンマーシャーク(人食いザメ)と戦いながらの真剣な一瞬。深海数十メートルで神秘的な楽土でした。会員も息を止めての映像を鑑賞。



■ 例会のひとこま



お誕生日祝(8月) 若林尚史会員 おめでとうございます。



新会員を推薦された國田欣吾会員、源本将人会員、栗津直晶会員に対し地区より記念品の贈呈がありました。

今後の予定

9/29 (水)	・卓話「皇帝の話」 上野徹会員 ・情報集会18:00～ 魚慶
10/6 (水)	・卓話「職業奉仕月間にちなんで」 北村隆職業奉仕委員長 ・100万ドルランチ ・定例理事会
10/13 (水)	・卓話 重田恵年会員

2010年 9月～10月

月	火	水	木	金	土	日
9/27	28	29	30	10/1	2	3
	献血 キャンペーン	例会 情報集会				
4	5	6	7	8	9	10
		例会 定例理事会 100万ドルランチ				
11	12	13	14	15	16	17
		例会				

お知らせ

献血キャンペーンのお知らせ

*9月28日(火)牧野生涯学習市民センター
10:00～12:00 13:00～16:00
献血にご協力よろしくお願ひします



第2回情報集会のご案内

*9月29日(水) 魚慶 18:00～
送迎バス 樟葉駅前住友三井BK前 17:30出発
*会費 2,000円
*締め切り 9月22日(水)
*メイクアップ扱いとなります

<5RC親睦ゴルフ大会のご案内>

*日 時 2010年10月16日(土)
*場 所 交野カントリークラブ
交野市倉治2937 電話892-1102
*参加費 プレ-費¥19,000- 参加費¥10,000-
*その他 締切9月29日

報告事項

○本日の配布物

- ①変わるロータリークラブ「第2660地区」の元気人冊子
- ②講師プロフィール

○本日の回覧物

- ①春のライラ報告書

○地区行事等出席報告

- 9/17 IM担当者会議 源本、山口(彰)
- 9/19 北河内柔道大会 多田
- 9/21 交通安全パレード
- 9/22 交通安全啓発キャンペーン

○地区行事等出席予定

- 9/30 地区研修委員会 金森
- 10/9 青少年奉仕正副委員長会議
- 10/23 財団委員長会議
- 10/29 地区大会(1日目)
- 10/30 地区大会(2日目)

第1739回例会出席報告(9月15日)

会員総数	出席者	出席率
60名	39名	75.00%
第1736回例会補正後出席率		79.63%
メイク 4名	欠席 11名	除外 6名



ニコニコ箱メッセージ

*ゴルフコンペ久々の入賞(今日は優勝)しました。

その喜びに! 北川順清

*誕生祝いと思いがけずお見舞いを頂いた

喜びに…感謝 若林尚史

ニコニコ箱	合計 ¥10,000	累計 ¥331,000
-------	------------	-------------



発行 KUZUHA ROTARY CLUB

国際ロータリー 第2660地区
創立:1974年5月30日承認:1974年6月25日
クラブ名称変更承認:2005年6月6日
会 長 岩本 昌治
広報委員長 西田 英夫

大阪府枚方市楠葉花園町14-2
樟葉パブリックゴルフクラブハウス2F
電話 072-855-5125
FAX 072-855-5180

Email: kuzuha-rc@kcat.zaq.ne.jp
URL:http://www.kcat.zaq.ne.jp/kuzuha-rc/